R6 学校研究

① 研究主題及び副題

『自ら考え，表現する子の育成　～　アウトプットを大切にして　～』

② 主題設定の理由

昨年度，主題を「自ら考え，表現する子の育成　～学び合いを大切にして～　」として研究を進めてきた。重点①「自ら考えさせるための手立て」では，児童の意識や思考の流れに沿った課題設定をする，児童の声を基に学習計画を立てる，既習を想起する，話型や選択場面を提示するという手立てをとってきたことで，自ら考えようとする姿が多く見られるようになった。重点②「みんなで高め合わせるための手立て」では，構造的な板書をする，協働的な学びの場を設定する，根拠を基に伝え合う，再思考を促す発問や資料を提示するという手立てをとってきたことで，自分の考えを高めることにつなげることができた。

本校の児童は，学習に対して意欲的であり，学習を自分たちで進めようという気持ちをもつようになっている。交流を通して学び合おうとする姿も見られ，学習に対して主体的に動き出す子供たちに育ってきている。これは，教師が子供主体の授業を意識し，子供の「～したい」という思いを軸にした授業展開，子供に委ねる場面の設定，学びや変容を実感する終末（黄金の１０分間）の確保を実践してきたからである。しかし，自分の考えはもとうとするが，それを表現しようする児童は限られている。協働的な学びの場で，受け身的にインプットする姿にとどまり，分かった気になって交流を終えてしまう児童がいる。そんな終え方をしているため，まとめを書くときにキーワードを落とさず，条件に合わせて簡潔に書けないのである。授業の中で一人一人が必ずアウトプットする場面があると思えば，聞く必要感も高まり，分かったつもりになっていたことが十分に理解できていなかったことに気付き，さらに主体的に伝え合う姿になっていくと考える。まとめを書く前に話して表現をすることで，書いて表現する力にもつながっていくと考える。

今年度も，主体性を引き出すためカリマネの柱を「自分で考える力を付けよう」とし，研究では，子供主体の授業となるよう工夫し，自ら考える力を伸ばし，考えたことを目的意識や相手意識をもち表現する力を付けていきたい。そこで，今年度は，研究主題は引き続き「自ら考え，表現する子の育成」と，副題を「アウトプットを大切にして」と設定した。重点を，①「主体的に考える姿をめざして」，②「高め合う姿をめざして」と設定し主題に迫りたい。尚，１人１台端末を意図的に活用しながら研究を進めていく。

重点①　主体的に考える姿をめざして

自ら「やってみたい」「知りたい」「考えたい」という「～したい」という思いをもたせ，意欲的に考えをもとうとする姿を目指す。そのためには児童が考えをもちたくなるような単元構成や課題設定，教材や導入，提示の仕方の工夫はもちろん，個別最適な学びを確保し，見取りを行いながら指導に生かしていくことで，主体的に考える姿に迫っていきたい。

重点②　高め合う姿をめざして

高め合うとは協働的な学びの中で，「考えがもてなかった子が考えをもつ」，「考えが変容する」，「考えが確かになる」「考えが広がる」ことである。教師は，教科の見方・考え方，授業の山場や目指したい児童の姿，ねらいに迫るキーマークを付ける言葉は何か，その言葉を引き出すためにどんな発問をし，板書に位置づけるかを具体的にイメージして授業に臨む必要がある。インプットとアウトプットを常に双方向で行いながら，思考を高めていく姿に迫っていきたい。